

## のぎまればすけ 京都の学習院と乃木希典

第10代学習院長乃木希典は京都の学習院に関する資料をいくつか遺している。その中から乃木希典筆「学習院学則」と座田維貞著・乃木希典再刊『国基』を紹介したい。

乃木希典筆「学習院学則」は、同じ形状のものが二点ある。一つは文章をそのまま書写しているが、もう一つは「履聖人之至道」と「崇皇国之懿風」とを入れ替えて皇国を崇めることを第一として書いている。天皇への至忠を貫いた彼らしい一品と言えよう。

学習院学則の根本的思想は『国基』に基づいていると考えられている。座田は学習院雑掌で、実務に長けた官人でありながら儒学と国学を兼ねた学者として知られていた。『国基』は政治や学問などの国の特質を風土や自然から説く水土論によって、国体の独自性と主体性を説いたもので、当代に限らず昭和前期にいたるまで思想的な影響を与えた。乃木は明治40年代初めに儒学者山鹿素行の著書を私費で次々に出版しているが、その流れの中で同43年に『国基』を再刊した。また翌年には学習院で『国基』についての講義を行っている。乃木が京都の学習院の教育と座田の功績を高く評価していた事がうかがえる資料である。

(橋本佐保)

※公家の名の読み方は、本誌では『雲上明覧大全』（『近世公家名鑑編年集成』終風社）などに依った。

※特に注記のない画像は当館所蔵資料である。

### 学習院大学史料館からのお知らせ

## 平成28年度春季特別展 「幕末京都の学習院」展

【主催】学習院大学史料館 【共催】霞会館

【協力】史跡足利学校、東洋文庫

学習院総務部、学習院アーカイブズ、学習院大学図書館、  
学習院大学文学部史学科

【会期・会場】

●平成28年4月2日(土)～5月28日(土)

開室：月～土曜 10:00～17:00

閉室：日曜・祝日

(ただし4/3(日)・4/17(日)開室)

●北2号館1階 学習院大学史料館展示室

●入場無料

●ギャラリートーク ①4/17(日)「京都学習院の漢籍」中嶋諒  
②5/21(土)「京都学習院の生活」橋本佐保  
いずれも14:00～展示室内

【関連講座】

第79回学習院大学史料館講座

「京都の学習院—公家・幕府・藩の動向と関連させて—」

日時：5月7日(土) 14:00～15:30

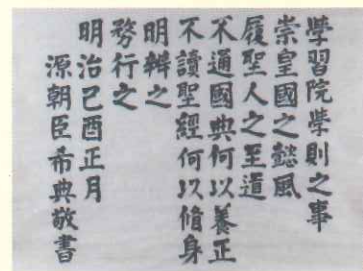
会場：学習院創立百周年記念会館正堂

講師：家近良樹先生(大阪経済大学経済学部教授)

\*入場無料 事前申し込み不要



第10代学習院長乃木希典



乃木希典筆「学習院学則」  
(学習院アーカイブズ所蔵)

### □ 幕末京都の学習院 年表

安永 8年(1779年)	光格天皇即位 学問所設置をのぞむ
文化 14年(1817年)	仁孝天皇即位
天保 13年(1842年)	朝廷側から幕府へ学問所設置を要請
弘化 2年(1845年)	幕府が朝廷側の要請を了承
弘化 3年(1846年)	孝明天皇即位 学問所講堂の完成 「学習院条目」が定められる 書籍の下賜・寄贈 その他調度・備品の用意
弘化 4年(1847年)	学問所開講
嘉永 2年(1849年)	勅額「学習院」下賜(「学習院」の名称の公定)
嘉永 6年(1853年)	ペリー 浦賀に来航
安政 5年(1858年)	日米修好通商条約 調印
文久 2年(1862年)	長州藩等の尊攘派の参集所として 学習院が利用される(学習院御用掛設置)
文久 3年(1863年)	八月十八日の政変 尊攘派京都から一掃される
慶應 3年(1867年)	王政復古の政変
明治 元年(1868年)	学習院が大学寮と改称 皇学所・漢学所が併設される
明治 2年(1869年)	皇学所・漢学所廃止 京都大学校として開講
明治 3年(1870年)	京都大学校が京都府に移管し京都府中学校となる 学習院の最終的な閉幕

### ミュージアム・レター第31号

2016年4月1日発行

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

電話 03(5992)1173

FAX 03(5992)9219



Gakushuin University Museum of History  
学習院大学史料館

● ホームページもご覧ください

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>